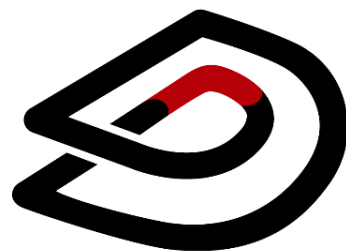


人を不幸にしないための、デジタルと



**デジタルプラス**

**2025年9月期 第1四半期  
決算説明資料**

## 全社売上・粗利の最高値を更新、営業利益8百万円で着地

フィンテックセグメント好調。一方、デジマセグメントの軟調及び一時的な資金移動業準備費用で、営業利益率が減少。デジマセグメントのプロモーション事業は売却の方針

## 流通総額19四半期連続成長、前年同Q比1.7倍

年間流通総額が約100億円のベースに成長。流通総額拡大へ注力し、一時的に低下した流通粗利率は5.2%まで回復・上昇。今後は再び、流通総額拡大の成長率向上を優先

## フィンテックセグメント 過去最高 売上・粗利・利益を更新

粗利率85%・利益率42%と高い利益性を維持し成長中。短期的には資金移動業取得準備による販管費増を見込むが、中期的には更に利益率が大幅向上の見込み

## 取締役全員による第7回ストックオプションの全行使 (※)

総額約1.3億円の払い込みにより、資本が増加。財務健全性に寄与

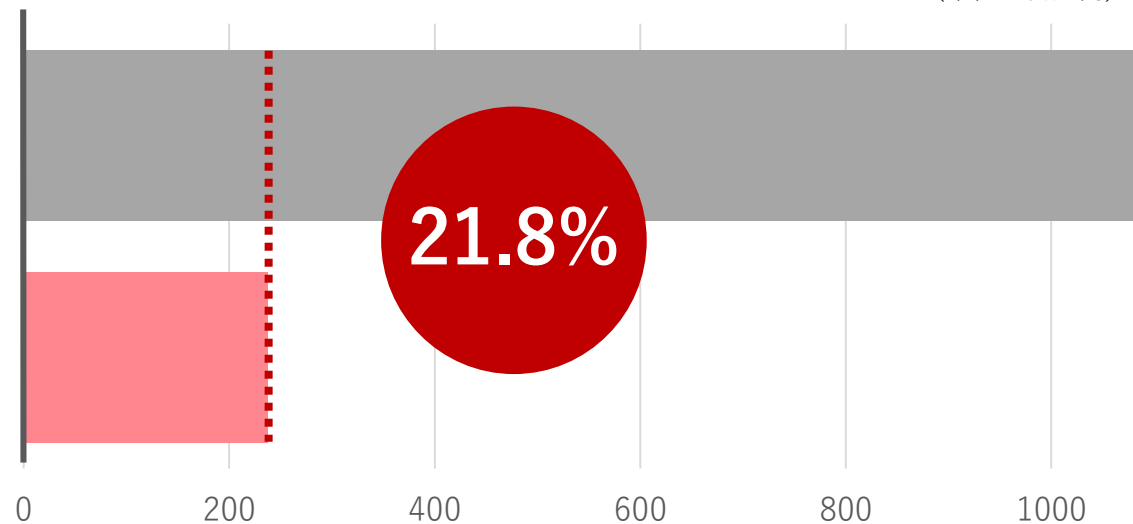
通期業績予想に対し、売上は**フィンテックセグメントが堅調に推移**した結果、良好な進捗状況。

一方、デジマセグメントの軟調、及び外形標準、子会社移転費用などの**一時的な費用の増加が営業利益を圧迫**

(単位：百万円)

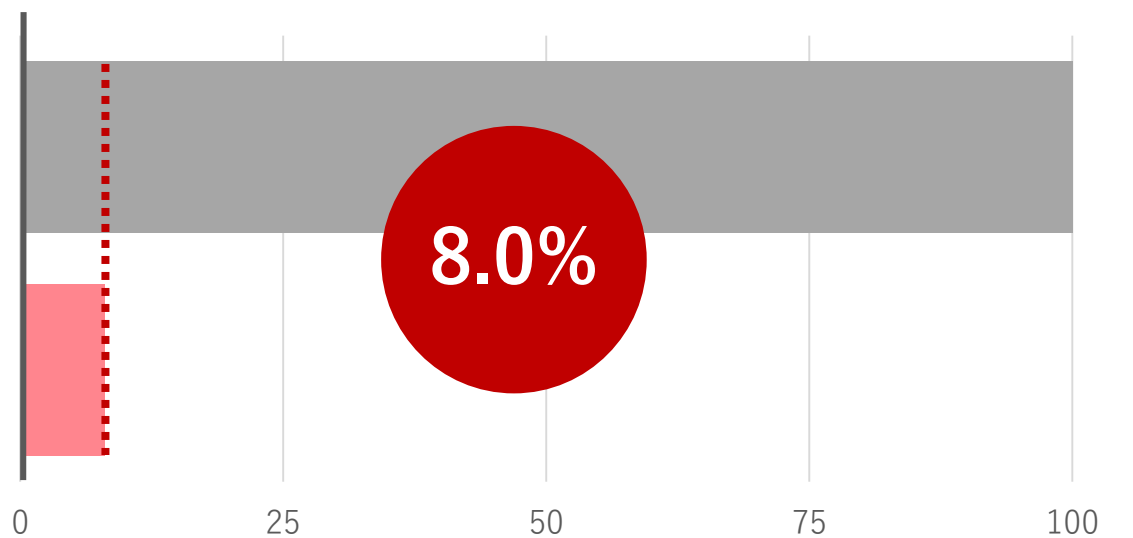
売上

通期予想	1,090百万円
1Q累計実績	<b>238百万円</b>



営業利益

通期予想	100百万円
1Q累計実績	<b>8百万円</b>



# 連結損益計算書（P/L）：2025年9月期 第1四半期決算概要（IFRS適用・会計期間）



当第1四半期会計期間は、前四半期に引き続き売上・粗利ともに着実に成長。

**販管費が一時的に増加したものの、営業利益は黒字にて着地**

単位：百万円	2025年9月期 第1四半期 (2024年10月～2024年12月)	2024年9月期 第4四半期 (2024年7月～2024年9月)	前四半期比	2024年9月期 第1四半期 (2023年10月～2023年12月)	前年同期比
売上収益	238	219	109%	203	117%
売上総利益	192	185	104%	173	111%
売上総利益率	81%	84%	▲3pt	85%	▲4pt
販売費及び 一般管理費	200	187	107%	179	112%
その他収益及び 費用	16	1	1600%	16	100%
営業利益	8	▲0	—	11	73%
四半期利益	▲9	16	—	36	—
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲12	▲2	—	10	—

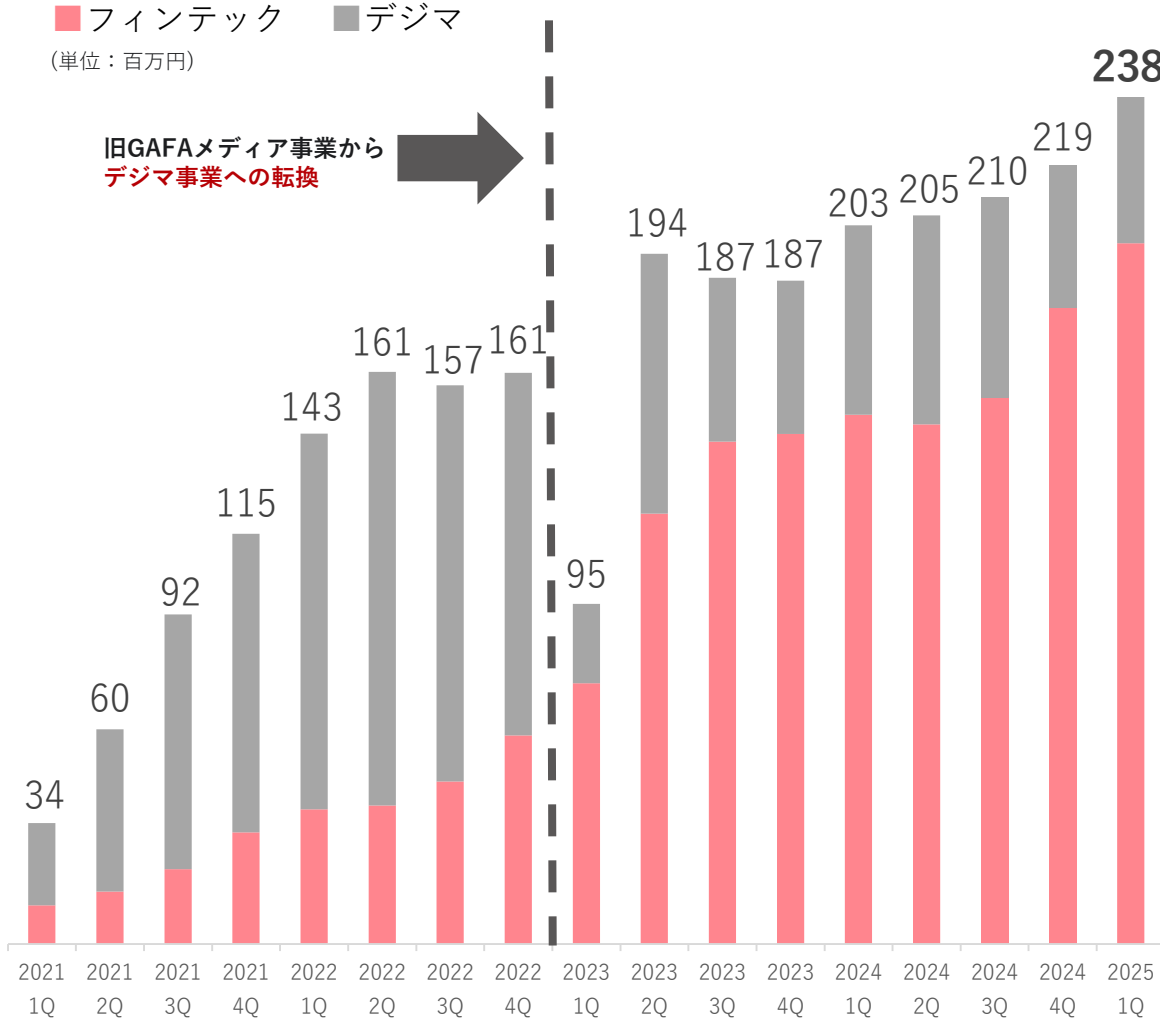
## 当社考察

- 1 デジマセグメントの軟調を受け、売上原価が上昇した結果、粗利率が悪化
- 2 子会社であるデジタルフィントックの本店を札幌に移転することに合わせ、**新たなオフィスへ移転を実施**。当該移転費用や今後の組織成長のための採用・業務委託費用などの**一時費用の増加があり、営業利益は減少するも、黒字を維持**

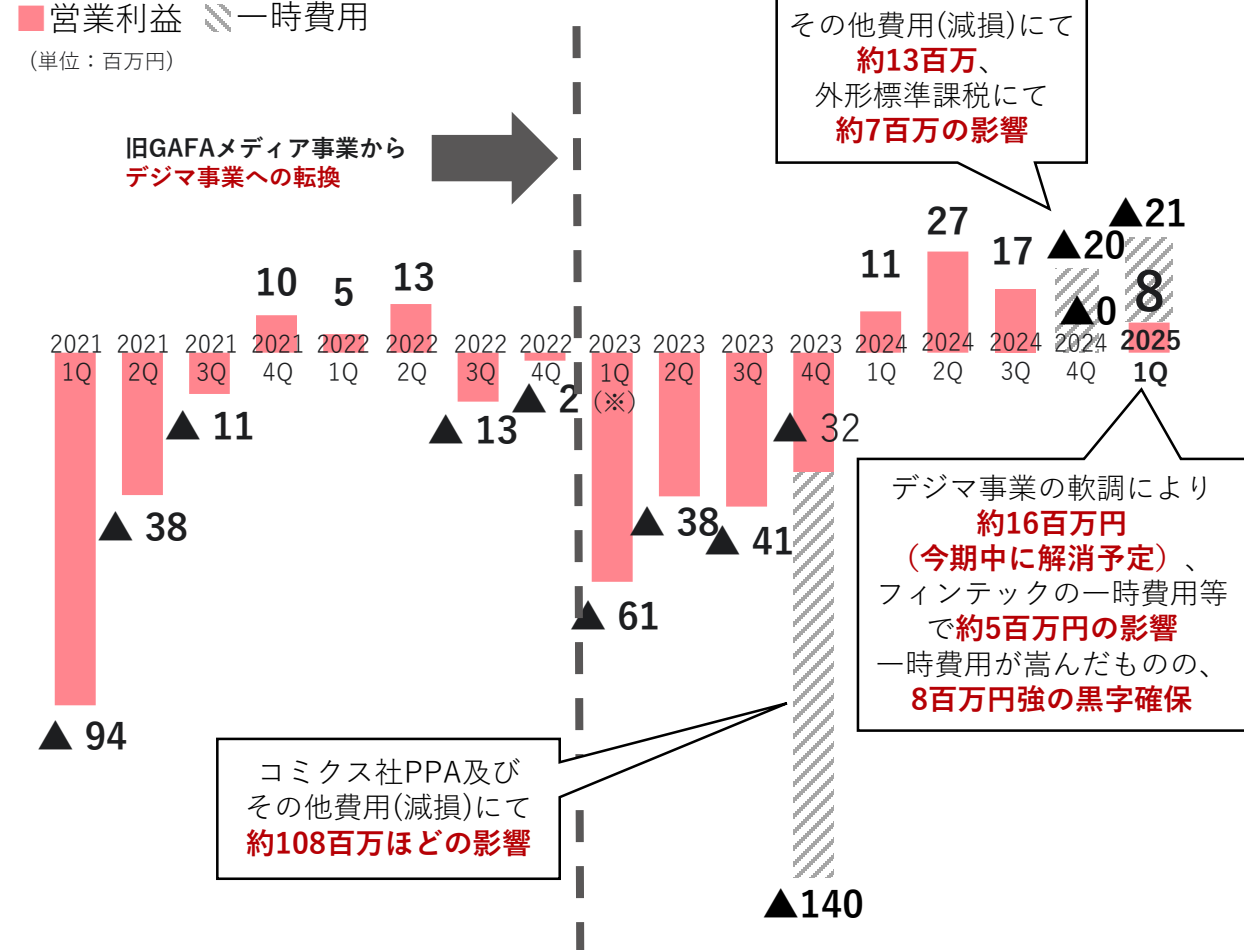
# 売上・営業利益 | 四半期毎の推移

第1四半期は、フィンテック事業の成長が寄与し、**2021年9月期以降過去最高売上を更新し**、  
 デジマの軟調やフィンテック事業における移転費用等の一時費用があったものの、**営業利益は黒字で着地**

## フィンテック・デジマの四半期売上推移



## 営業利益の四半期推移



(※) 2023 1QよりIFRS適用

# 連結貸借表 (B/S) (IFRS適用)

新規事業であるファクタリングを始めとして、フィンテック事業の更なる成長と季節要因が重なった結果、現預金が減少したものの、**第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換により資本は増加**

単位：百万円	2025年9月期 第1四半期末 (2024年12月31日時点)	2024年9月期 第4四半期末 (2024年9月30日時点)	前四半期	2024年9月期 第1四半期末 (2023年12月31日時点)	前期末比
流動資産	1,468	1,597	92%	1,141	129%
現金及び 現金同等物	587	801	73%	512	115%
非流動資産	823	738	112%	644	128%
資産合計	2,291	2,335	98%	1,786	128%
流動負債	1,368	1,396	98%	1,103	124%
非流動負債	67	122	55%	139	48%
資本	855	817	105%	543	157%
負債及び 資本合計	2,291	2,335	98%	1,786	128%

## 当社考察

- 1 フィンテック事業において、ファクタリングの買取額の増加及び年末年始の連休に備えたギフト仕入代金増加により現預金が減少  
 今後は更なる流通総額の拡大に向けて、Debtによる資金調達を行っていく方針
- 2 マッコリー・バンク・リミテッドを割当先として発行したCBの資本転換により負債が減少し、資本が増加

前年同Q比では、**流通総額171%、粗利140%成長、セグメント利益164%成長**

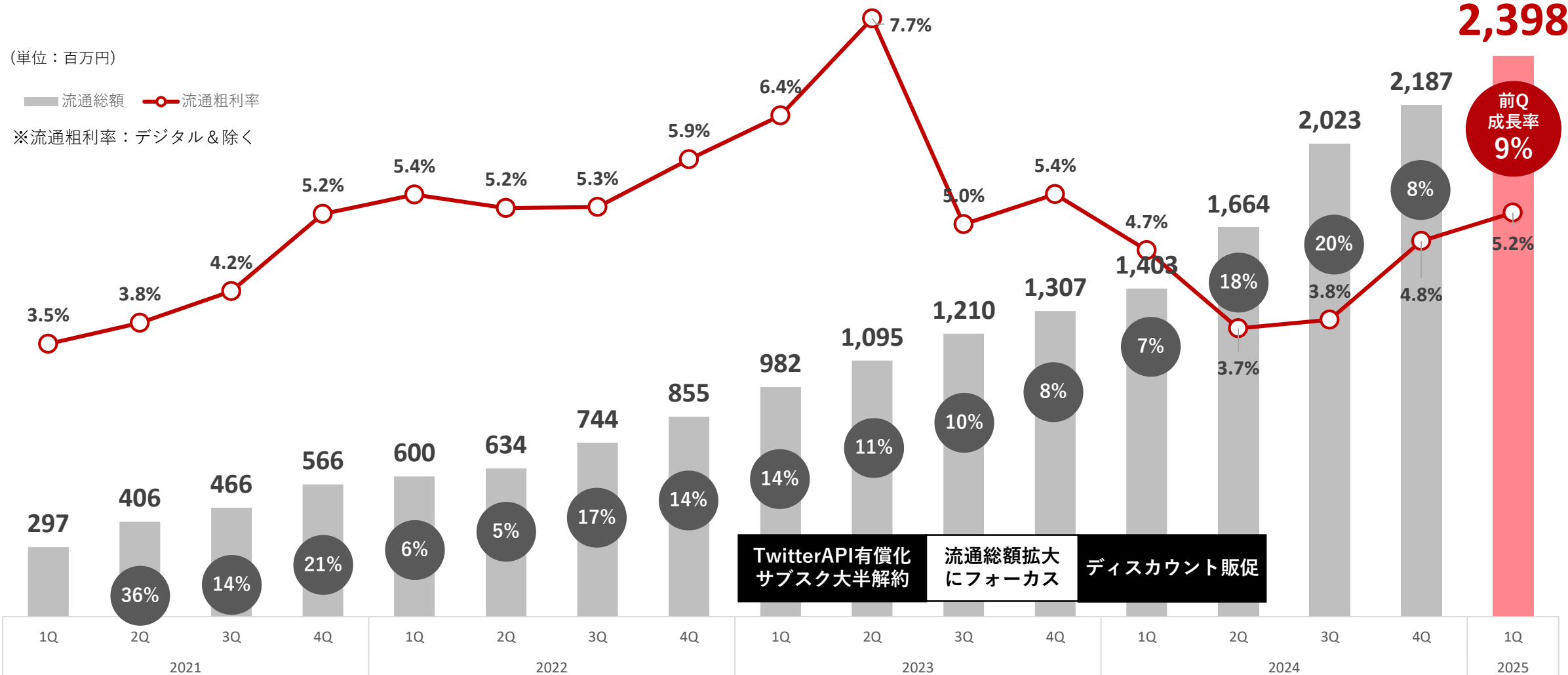
子会社の移転費用等の一時費用が生じたものの、**フィンテックの利益率成長が全社の利益率を牽引**

単位：百万円

	当Q実績	前Q実績	前年同Q実績	前Q比	前年同Q比
流通総額	2,398	2,187	1,403	110%	171%
売上	197	179	149	110%	132%
粗利	167	152	119	110%	140%
粗利率	85%	85%	80%	0pt	5pt
販管費	85	76	69	112%	123%
セグメント利益	82	76	50	108%	164%
セグメント利益率	42%	42%	34%	0pt	8pt

# フィンテック流通総額の四半期推移

2025年1Qフィンテック流通総額は**19四半期連続成長**、**年間約100億円ベースへ**  
 サブスク収益減少やディスカウント販促の影響後、**流通粗利率は5.2%**となり回復・上昇傾向。  
 再度、流通粗利率を低下させても、流通総額拡大を優先、四半期成長率を上昇させる。  
 補助金ファクタリングは補助金の新年度受付開始時期の関係で1-6月は停止見込み





お金ではかなえられない 毎日をつくっていく。

2025年9月期目標

流通総額120億円(前期比1.7倍)

2027年9月期目標※

流通総額 1,000億円 営業利益率 50%

流通総額1,000億円に向けた戦略の一環として、今期より株主優待市場の開拓を強化。

本領域単体で流通総額100億円を目標とし、現在、**IR未開示企業を含む18社から導入意思を獲得**済み



AIAI

PORT INC.

BBD  
Initiative

ra((oon  
HOLDINGS

Mobile Factory

IST  
情報戦略  
テクノロジー

BUSINESS COACH®

fabrica  
HOLDINGS

RENTRACKS

1. 会員登録・ログイン不要！
2. 多様な受取方が可能！（PayPay・アマギフト・マイル等）
3. 使われなかったギフト金額は、**全額返金**！
4. 低コストで配送可能！（QRコード・メール・SMS等）
5. 自社商品との併用可能！
6. アンケートや動画視聴機能も無料提供！

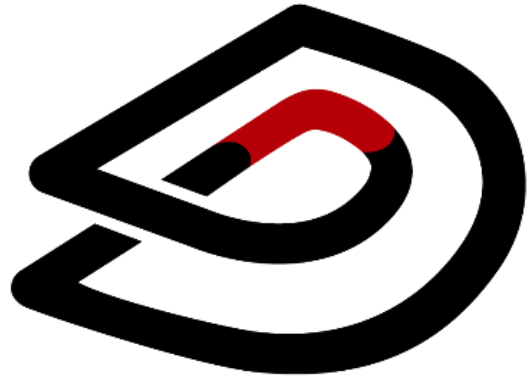
主要クライアントの季節要因もありセグメント利益は前年同Q比49%で着地  
**買収した事業であるプロモーション事業は今期内を目処に売却の方針**

単位：百万円

	当Q実績	前Q実績	前年同Q実績	前Q比	前年同Q比
売上高	41	39	54	105%	76%
粗利	25	32	53	78%	47%
粗利率	61%	82%	98%	▲21pt	▲37pt
販管費	21	16	28	131%	75%
その他収益及び費用(※)	16	-6	16	-	100%
セグメント利益	20	10	41	200%	49%
セグメント利益率	49%	26%	76%	23pt	▲27pt

※:IFRS上、売上高の一部をその他収益として振替計上

人を不幸にしないための、デジタルと



**デジタルプラス**

はじまること、出会うこと、成長すること、遊ぶこと、  
学ぶこと、挑戦すること、愛すること、  
失敗しても、またはじめられること。

前に進む人生のすべてに、

一緒にいるデジタルを提供していく。

無意識のうちに、つい、あきらめてしまっていることを、

叶えられることに変えていく。